



国際協力

No.53 2017.10.1

JICA 駒ヶ根

～おかげさまで累計二万人達成！ 駒ヶ根発 JICA ボランティア～

1965年に発足した青年海外協力隊事業は、当初から派遣前の訓練を重視し、語学を中心とする幅広い内容の合宿形式の訓練を通じて、実践的な力を養うことを特徴としています。始めは専用の施設が無かったため、1968年に自前の訓練施設が東京広尾に完成するまでは、横浜移住センターを借りて訓練を行っていました。



1979年の訓練所開所式

その後、派遣規模が順調に拡大するに
応じて、二つ目の訓練施設の必要性が高まり、1979年5月、総工費8億円をかけた駒ヶ根訓練所が開設されました。当時、協力隊事務局長で

あった黒河内康氏は次のように述べています。「20名に近い外国語講師が一举に駒ヶ根に住むことになるが、1回100名余の訓練生の存在とともに、駒ヶ根市およびその周辺に歓迎されるに至ることを念じている。その意味で、訓練所の活動面にも、可能な限り、青少年団体等との交流をはじめとする地域社会との接点を加味すべく配慮されている。」

100名規模でスタートした駒ヶ根訓練所は、1988年の増築で200名規模となり、2007年からシニア海外ボランティアが、2017年からは日系社会ボランティアが合流して、現在は70日間の派遣前訓練を1年に4回行い、年間で約600名のJICAボランティアを中南米、大洋州、西アフリカ、南アジア、中央アジアの約40か国に送り出しています。黒河内元局

長の言葉どおり、訓練生たちは「学校交流」や「所外活動」などの訓練プログラムを通じて地域の人々と交流し、「みなこいワールドフェスタ（協力隊週間）」や「みなこい地域魅力体験ツアー」を通じて、豊かな自然に恵まれ温かな人々が暮らす地域の魅力を存分に味わって、それぞれの任国に旅立っていきます。

このたび駒ヶ根訓練所では、今年度第2次隊の訓練修了をもって「修了者数の累計2万人突破」という一つの節目を迎えました。これまで地域の皆様が寄せてくださった応援とご支援に改めて感謝し、これからも地域とともに歩んでいく訓練所として、いっそう地域の皆様との繋がりを大事にしたいと思っております。

10月21日から始まる「第24回みなこいワールドフェスタ」では、最終日の29日に開催される「こまがね国際広場」で、「駒ヶ根訓練所二万人達成記念ブース」を開きます。JICA、JOCA（青年海外協力協会）、株式会社パークレイハウス（語学会社）が共同で出展し、訓練所の歴史や訓練の様子に触れられるスペースを作る予定ですので、どうぞ参加ください。多くの皆さまと触れ合えることを楽しみにしております。



開設当初の全景

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所長 清水勉、スタッフ一同

第24回 みなこいワールドフェスタ

～「ひと・まち・せかい」がつながる～

日時：2017年10月21日（土）～29日（日）

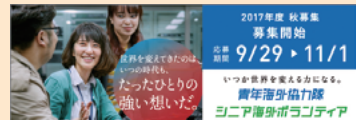
実施場所：駒ヶ根市広小路・銀座商店街・伊南地域各所

JICAボランティア、帰国ボランティア、外国籍住民の方々、地域のボランティアスタッフが一緒になり、地域の皆さんに「参加し、体験し、感じてもらう」、この地域に居ながらにして国際文化に出会える機会です。

最終日10月29日には、こまがね国際広場が開催され、いろいろな国の料理が集合し、国際交流と国際協力のテント村が出展。ワールドステージでは、世界を感じるエンターテインメントが繰り広げられます。

始まりました JICAボランティア！ 秋募集

9月29日(金)～11月1日(水)



今回の秋募集では駒ヶ根訓練所とその周辺の伊那市・飯田市でも説明会を実施。合計6都市で説明会を行います！
上田、松本、長野会場では、青年海外協力隊とシニア海外ボランティアの経験者お二方の体験談を聞くことができます。

9月30日(土)	午後2時～4時	上田市中央公民館2階 第1会議室
10月4日(水)	午後7時～9時	松本市中央公民館(Mウイング)4-4会議室
10月14日(土)	午後3時～4時30分	飯田市りんご庁舎3階 会議室2
10月18日(水)	午後7時～9時	長野市生涯学習センター(TOiGO)3階 第2学習室
10月22日(日)	午前10時～午後4時	駒ヶ根青年海外協力隊訓練所(一日体験入隊)
10月26日(木)	午後7時～8時30分	伊那市生涯学習センター(いなっせ)5階 研修室501

※10月22日(日)JICA駒ヶ根、一日体験入隊のみ、事前の参加予約と昼食代500円が必要。詳細はJICA駒ヶ根のホームページにて。

シリーズ 世界から、地域で活躍！ 信州で活躍する元協力隊員に聞きました！

今回は、地域に根ざして活躍されているOBの方々です。



辰野町在住
よし え ゆう すけ
吉江 勇介 さん
平成18年度 第2次隊
派遣国：ラオス
職種：村落開発普及員
出身：辰野町



Q1：協力隊員となったきっかけは？

高校生の時に、テレビで発展途上国について取り上げられていたことがきっかけです。テレビの向こう側にいる、飢えて学校にもいけない子どもたちの中には、きっと私よりも努力家で才能があって社会の役に立ちうる子供がいるだろう、と。私ができることは限られていますが、その「誰か」の役に立つことで社会の役に立てたらいいなあ、と思い、協力隊員を目指しました。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？



活動中の吉江さん

私が派遣されたラオスは東南アジアで唯一の内陸国。任地のラオス北部・ボケオ県は山ばかりで、まるで長野県にいるようでした。主食も米で宗教も仏教なので、文化面で困ることは少なかったです。数週間にも及ぶ無計画の断水が何度もあり、お風呂はもとよりトイレにも困る、ということが大変でした。

Q3：現在のお仕事について教えてください。

現在は、岡谷市にて「カフェ・ヒルパレー」を運営しています。カフェとしてだけでなく、当店にて様々なイベントを開催して、多くの方に新しい体験をしていただくきっかけになれば、と思っています。

Q4：協力隊の経験は今どう活かしていますか？

カフェ・ヒルパレーで開催しているイベントの中に、3ヶ月に1度開催する「世界広がるトーク」があります。これは、青年海外協力隊のOB達に現地のリアルな生活・体験などを話してもらい、発展途上国をもっと身近に感じてもらうためのイベントです。毎回、「テレビでは感じられない面白さが伝わった」と多くの方から好評を得ています。こういったイベントもできるほどの「人とのつながり」が最もよい経験になったと思っています。



「世界広がるトーク」の様子



駒ヶ根市在住
し ろ む ら ひ で し
城村 英志 さん
平成10年度 第3次隊
派遣国：セネガル
職種：野菜
出身：伊那市



Q1：協力隊員となったきっかけは？

幼いころテレビを見てると、アフリカで井戸掘りを指導している青年と、水が出て喜び村人の姿に、「みんな嬉しそう」「かっこいい」「僕もこんなことしたい」と強く思いました。後で父親に聞くと青年海外協力隊のことを教えてくれ、「じゃあ、僕も大きくなったらそれになって、アフリカにいった井戸を掘る！」と、テレビで見たまま夢見る少年がそのまま大人になりました。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？

何も役にたてないと最初の半年間は悩み、食事も喉をとらず体重は11kg減。その後、近くの小学校で子どもたちへの野菜栽培指導、および養鶏をスタートすることができ、一安心でした。それが学校運営費の補助とされたことは嬉しかったですし、毎日、子供たちの笑顔とふれあえたのも幸でした。



家のお隣りさん

Q3：現在のお仕事について教えてください。

最近、6年半ぶりに駒ヶ根に戻ってきて、JICA駒ヶ根近くにある森の中の教会で牧師をしています。また、障がいを持たれた方々の生活・就労サポートと、セネガル、フィリピンでの生活支援を目標に、伊那市にNPO法人5 loaves(ファイブローブス)を立ち上げました。悩みを持たれた方々のカウンセリングをさせて頂きつつ、一緒にビジョンを描き活動する仲間と楽しく語り合っています。

Q4：協力隊の経験は今どう活かしていますか？

一旦立ち止まらなければならぬ場面で、あの時の経験が自分の視野を拡げてくれます。そして、目の前には人の優しさやチャンスが多くあることに気付かされるのです。そうしたものに飛び込み、互いに励ましあいながら生きることの喜びを知ってしまったので、生き方も少し大胆になりました^^。また、牧師もNPOの仕事も人を愛するところから始まります。あの時、たくさんの人に支えられ愛された経験が、今の私を動かしているのだと思います。



子供達と紙ひこうきを作って(右端が城村さん)

イベント・レポート

Event Report



8/4

JICAボランティア帰国報告会

駒ヶ根訓練所の恒例行事となりつつある帰国報告会。JICAボランティアをもっと一般に広く知ってもらいたい、隊員経験者のアドバイス、メッセージを訓練生に聞いてほしい、という思いで、長野県出身隊員のJICAボランティア帰国報告会を開催しています。今回は、訓練生35名の他に、周辺地域の一般の方、スタッフを含めて50名程の参加がありました。

さらに、「将来は、青年海外協力隊に参加したい!!!」という高校生の出席もあり、スタッフ一同その熱意に感動しました。

発表者3名の皆さんは、なぜJICAボランティアを志したのか、また各国での生活や、活動におけるスランプの時期や、その乗り越え方等、1人1人が生き生きと語ってくれました。

次回の帰国報告会は11月2日(木)18:30~20:30にJICA駒ヶ根で開催します。3名の青年海外協力隊経験者が、一人20分間ずつ発表の予定です。

皆様のご参加をお待ちしています!

青年海外協力隊



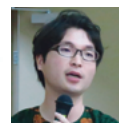
樋口 幸奈さん
(茅野市)

平成27年度1次隊
職種:環境教育
派遣国:ドミニカ共和国



清水 愛さん
(塩尻市)

平成27年度1次隊
職種:小学校教育
(現職教員特別参加)
派遣国:ホンジュラス



丸山 力矢さん
(松本市)

平成27年度1次隊
職種:PCインストラクター
派遣国:ガボン

8/31

駒ヶ根市地方創生シンポジウムが開催されました

8月31日(木)駒ヶ根総合文化センターで、約400人が聴講して、駒ヶ根市地方創生シンポジウムが開催されました。



駒ヶ根訓練所で派遣前訓練を受託している(公財)青年海外協力協会(JOCA)は、その本部を来年2月ごろに東京から駒ヶ根市に移転することを決定しました。

シンポジウムの第一部は、JOCAの雄谷良成理事長が「いま、『ごちゃまぜ』が面白い!—地域共生社会の持つ可能性—」と題し、講演されました。その後、第二部では、阿部守一長野県知事、三菱総合研究所本多均副理事長、杉本幸治駒ヶ根市長、JICAの越川和彦副理事長をパネリストとしてお迎えし、雄谷理事長の司会で、「新たな地方創生への挑戦」というテーマで座談会が開かれました。

JOCAの本部の駒ヶ根市への移転、10年後のリニアの開通を見据えた地方創生に関する活発な意見交換がありました。

9/24

第5回信州駒ヶ根ハーフマラソン

今年も信州駒ヶ根ハーフマラソンに青年海外協力隊経験者が走りました。

「派遣国ゼッケン」をつけた協力隊経験者ランナーが、今年も駒ヶ根の地を走り抜けました!今年度の「第5回信州駒ヶ根ハーフマラソン」では、58名の協力隊経験者が参加し、そのうち45名を超える方々が、前日当訓練所に宿泊し、夕食交流会に参加しました。一年ぶりに会う仲間、何十年ぶりに会う仲間と意気投合し、楽しい一時を過ごしながら、お互いの健闘を祈りました。今回は、前泊者に対し駒ヶ根協力隊を育てる会より駒ヶ根ソースかつ丼券、育てる会特製の日本手ぬぐいを頂きました。

当日はお天気が良く、沿道の市民の皆様温かい声援を受けながら、駒ヶ根市内を走り抜け、秋の駒ヶ根を十分に感じて頂けたと思います。また、給水ボランティアに駆けつけていただいた皆様もご協力ありがとうございました。来年も皆さまのご参加をお待ちしております!



2017年度 教師海外研修を実施しました!

JICA駒ヶ根では、毎年夏休み期間を利用した「教師海外研修」を実施しております。

2017年度はJICA東京との共催で、関東信越の1都5県より26名の教員が参加しました。長野県からは今年度以下の3名の先生方が、ベトナム、ザンビアの2コースに分かれてそれぞれ約10日間の海外研修を行いました。

【ベトナムコース参加】

豊科南中学校 浅原規貴先生
鬼無里中学校 新井秀和先生

【ザンビアコース参加】

上田高校 小林まゆ子先生

海外研修の前には国内研修があり、国際協力・開発教育について、海外研修で学んできたことをどう授業に活かすか、生徒に伝えるかを学び合いました。

3名の先生方は、それぞれ10月から11月にかけて、各学校で数コマの授業実践をする予定です。また、12月に駒ヶ根訓練所で行われる予定の「信州グローバルセミナー」では、海外研修、実践授業の報告をします。

教師海外研修に興味のある先生方、開発教育に関心のある先生方、是非来年はご応募をお考えください。

JICA駒ヶ根 中小企業海外展開支援



小祝社長のお話を聞くためにザンビア国内から12～13時間かけてきた隊員たちと一緒に

現在、中小企業海外展開支援事業～普及・実証事業～(ザンビア共和国における農業の高生産性を実現する土壌分析、施肥設計システム及び鶏糞混合肥料の普及実証)を実施中の伊那市のジャパンバイオフィームの小祝社長が、8月初めザンビアに渡航し、ザンビアの農業ショーに参加しました。農業ショーは、ザンビア国内の様々な農業関係者が集うザンビアの一大イベントです。ジャパンバイオフィームは特設ブースで土壌分析の実演や施肥設計ソフトについての仕様説明を行いました。収量アップに関わる内容に、参加者はとても興味を示しており、なかなか止まない質問に対しても丁寧にアドバイスしておりました。

また、同社の肥料を使って栽培実証試験をしているチョマ郊外の村を訪れ、キャベツの栽培を視察しました。それまで、雨季の時期に主食であるトウモロコシの栽培しかしていなかった農家さんが、同社の肥料を使って見事なキャベツや菜っ葉を生産されている圃場をとても満足そうな表情でご覧になっておりました。



試験圃場の視察をする小祝社長

草の根技術協力事業

【草の根研修員が信州各地で研修中です】

草の根技術協力事業の研修員がこの秋、信州各地で研修しています。

9月初旬には「ネパール国：農業高校の教育強化プロジェクト」(実施団体：信州大学)の研修員5名が、上伊那農業高校の実験農場などで地域の特性を活かした農業高校教育手法を学びました。ネパール初の農業高校であるコバン農業高校は開校してまだ3年です。現在は教科書を中心とした教育ですが、信州の農業高校の

ように実習と教科書を併用した手法を学び、先生方の技術力アップを目指しています。今後、9月にはフィリピン



熱心に質問する研修員(上伊那農業高校にて)の研修員が川上村や南牧村、10月にはタイ国から高齢者ケアプロジェクトの研修員が佐久市や上田市、11月にはネパール国から母子保健改善プロジェクトの研修員が駒ヶ根市で研修します。

JICA長野デスクの窓から♪

長野デスクのある長野県庁には、協力隊OBの職員の皆様がたくさん働いていらっしゃいます。今回は、その中の素敵なお二人を取材してきました!

◆小林 恭介さん(平成8年度1次隊、エクアドル派遣、野菜、佐久市出身)

2016年4月から県農業政策課農産物マーケティング室に勤務されています。その前は、東京都新島村の職員として15年間、島暮らしをされていました!



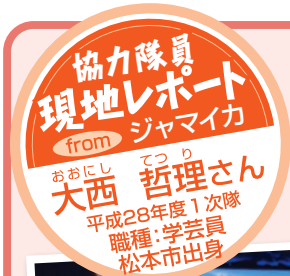
大学で農業を学び、ワーキングホリデーや協力隊の活動、新島村で農業と携わってきた小林さん。現在は「おいしい信州ふード(風土)」を担当し、県内の農畜水産物のもつ背景や生産者の思いを「ものがたり」として伝えていくのがお仕事。協力隊で培ったその地域の個性・多様性への気づきや感受性は、長野県独自の農産物の魅力を発信するうえでとても役に立っているそうです。

◆渡邊 希さん(平成22年度1次隊、ニカラグア派遣、小学校教諭、茅野市出身)

大学卒業後、3年間の教員経験を経て協力隊に参加。ニカラグアで中米の算数教育プロジェクトに携わっておられました。協力隊経験で「国の基盤となるのは教育」ということを感じ、帰国後は教員に復帰したのち県庁に入職。3年間の保健福祉事務所勤務の後、現在は県教育委員会特別支援課にて、行政の立場で教育を支えています。様々な事情を抱えた人との関わりの中で、それぞれの想いや考え、価値観を尊重する意識を持っていることは協力隊経験を通じて学んだことだとおっしゃいます。現在、協力隊長野県OB会の東信地区理事としても活躍中です!



協力隊OBの県職員有志は、情報交換を行いながら長野県のために頑張っています!該当者の方、長野デスクまでぜひご連絡ください!(TEL:026-235-7186)



「ヘーイ!ミスターチン!」ジャマイカの街を歩くと必ずどこからか呼びとめられます。

大半の車が日本車、若者や子どもは日本マンガ通、日本食レストランも評判。にも関わらず

ジャマイカ人にとってアジア系はみんな中国人。

日本のことを正しく知って欲しい!そう願って配属先の国立博物館で日本武道の展覧会を開催しました。ちなみ

に、ミスターチンと話しかけられて「日本人だよ」と答えると大抵「何!?カラテできる?」「アチョー!アイヤー!」などの雄叫びをあげてきます。それはクンフーでは?という疑問はさておき、ジャマイカで



はマーシャルアーツがとっても人気です。おかげさまで、地元の小学生を中心に4,000人を上回る来場者があり、日本の文化を体感していただきました。

現在は、館のビデオを一新しようと先住民族の研究を進めています。「タイノ」と自称した彼らは、コロンブスによって島が発見された後、もたらされた未知の病などにより絶滅しますが、祖先を敬い自然とともに生きた彼らの信仰は日本の宗教観とも通じるところがあり興味をかき立てられます。

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!

平成27年度1次隊
しみず めぐみ
清水 愛さん (塩尻市) ●派遣国: ホンジュラス ●職 種: 小学校教育

“¡Vamos a hacer juntos!” (一緒にやってみよう)
これは、私が活動する際によく使っていた魔法の言葉です。



活動校での個別支援の様子

私は現職教員参加制度を利用して、1年9ヶ月間、ホンジュラスという国で活動させていただきました。南部に位置するランゲ市という常夏の街で、教師の算数指導力向上の支援をしてきました。活動先の小学校の同僚は、私よりもはるかに教員経験をもつベテランの方ばかり。そんな先生方が自身のよさを活かしながら指導力を向上させることができるように、彼らのモチベーションを上げ、それを維持させることに奮闘しました。日々の授業参観を通して見てきた様々な課題に対して、同じ目線に立ち、とにかく

「一緒に!」別の手立てを試してみることで、だんだん活動がスムーズに進むようになりました。また、一緒に取り組むことで



1年生の子どもたちとの母の日のカード作り

私自身も多くのことを学ばせていただきました。

活動中は暑さにもデング熱にも負けましたが、周りの方々の優しさや明るさ、たくさんの愛、そしてホンジュラスのかわいい子どもたちに支えられ、無事に任期を終えることができました。日本の学校に戻った今、この貴重な経験を多くの生徒たちに伝え、生きた国際理解教育を行なっていくことが、これからの私の目標です。



同僚の先生たちと (お別れ会を開いてくれた時のもの)

受講者受付中 国際理解教育指導者セミナー

「信州発グローバル教育～参加型で実践! 国際理解をもっと身近に～」

国際理解の授業をこれからやりたい、やってはいるものをもっとブラッシュアップしたい、参加型の学習プログラムをどう取り入れようか、とお考えの先生方にご参加いただきたいセミナーです。今年も昨年度と同様、講師としてNIED・国際理解教育センター伊沢玲子氏にお出でいただきます。

今年も長野県教育委員会にご共催いただき、会場は塩尻市の長野県総合教育センターです。

- 日 程: 1日目 11/25(土) 開始: 13:00 終了: 20:00頃(懇親会を含む)
2日目 11/26(日) 開始: 9:00 終了: 17:00 ※2日間の連続講座
- 会 場: 長野県総合教育センター
- 対 象: 長野県内で国際理解の授業を実践している、または実践する予定の小・中学校、高校の教員
※2日間すべてのプログラムにご参加できる方を優先いたします。
- 参加費: 1,500円(1日目の懇親会費として)※総合教育センターへ宿泊される場合は1,100円追加。
- 内 容: 国際理解教育の目的と内容についての理解、多様な参加型手法の活用方法とプログラム作り、国際理解教育に取り組むためのアイデアの共有等。

青年海外協力隊 現職参加教員による体験談。

お問い合わせ・お申込みはJICA駒ヶ根 担当:岡田まで

Information

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

- ▶ 局長講話**
 内容：JICAボランティア事業の概要及びその活動
 10月18日(水) 15:10～16:00
 定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 局長
- ▶ JICA事業概要**
 内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要
 10月20日(金) 15:10～16:00
 定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 職員
- ▶ 地球のステージ(コンサート)**
 内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出ししながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。
 10月28日(土) 19:10～21:00
 定員：50名 講師：桑山紀彦氏(地球のステージ事務局)

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。


- ▶ 映画「クロスロード」上映会**
 内容：カメラマン助手になったものの、目標の見えない日々を過ごしていた沢田(黒木啓司)は、自分を変えようと青年海外協力隊に飛び込むが…
 11月6日(月) 19:10～21:00
 定員：20名
- ▶ 国際関係と日本の国際協力**
 内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する。
 11月8日(水) 15:10～17:00
 定員：10名 講師：廣野良吉氏(成蹊大学 名誉教授)
- ▶ 異文化適応概論**
 内容：文化とは何か、異文化理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化についていくにあたっての心構えを説く。
 11月16日(木) 15:10～17:00
 定員：10名 講師：木村秀雄氏(東京大学大学院 総合文化研究科 名誉教授)

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。
 ホームページ <https://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

2017年度2次隊(7名) 長野県出身新ボランティア

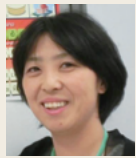
行ってきます!!

青年海外協力隊




やすはら かな
安原 花奈さん(安曇野市) 派遣国：エクアドル 職種：環境教育

エクアドルで地域住民や子供たちに環境教育を行います。環境に興味を持ってもらうきっかけとして、小さなことでもコツコツと活動していきたいです！2年間の活動頑張ります！




えびはら み
海老原ひとみさん(安曇野市) 派遣国：ラオス 職種：日本語教育

製薬会社の商品開発から日本語教師へ転身。「日本の会社で働きたい」「日本のことをもっと知りたい」そんなラオス人のニーズに応える日本語教育のほか、日本とラオスの距離がもっと近くなるような活動をしたいです。




みやざき まなみ
宮崎 愛生さん(中野市) 派遣国：ベナン 職種：コミュニティ開発

協力隊に参加すること、アフリカへ行くことが中学からの夢でした。地域の生活様式や健康状態を調査すると共に衛生啓発や衛生環境改善などの活動に従事します。様々な経験をし、いつか世界に還元できればと思います。




さかた あい
坂田 愛さん(上田市) 派遣国：スリランカ 職種：日本語教育

スリランカの中高生に日本語を教えに行きます。実際には自分が教える以上に多くの事をスリランカで学ばせていただくことと思います。たくさんものを見てきたいです。




さかい ともみ
酒井 知美さん(小布施町) 派遣国：トンガ 職種：看護師

トンガにある離島の病院で糖尿病対策を行う予定です。現地の人々の生活を考えながら、看護ができればと思っています。日本へ戻ってきたら日本や地域社会に貢献できるように2年間頑張ります。



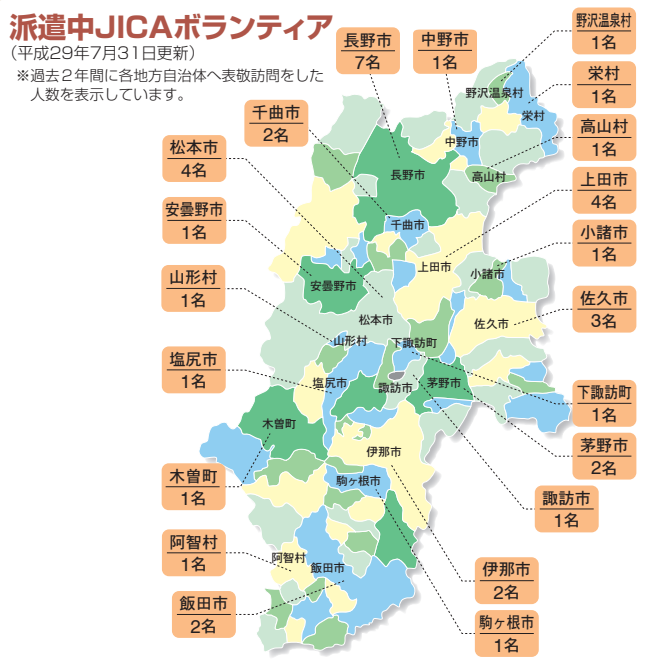
おおたき さきみ
大滝 咲美さん(岡谷市) 派遣国：ソロモン 職種：作業療法士

作業療法士になって4年。もっと自分自身の視野を広げたいと考え、応募しました。日本とは違う文化に触れ、その中で生きる障害児者に寄り添うような活動がしたいです。みんなが幸せと感じられるような世界を！



つちや
土屋 あかりさん(長野市) 派遣国：ベトナム 職種：幼児教育

ハノイにある幼稚園で、現地の先生方のサポートをします。ハノイに幼児教育で派遣されるのは私が初めてなので、私の後にもJICAの活動が続き、広がって行くことを視野に入れて活動していきたいです。そして、活動が続くことで、子どもたちが育つ為のより良い環境を整えることができるように持てる力を尽くします！



長野県出身者 JICAボランティア派遣実績

平成29年7月31日現在

派遣種別	派遣中	累計
①青年海外協力隊員	34名	991名
②シニア海外ボランティア	2名	79名
③日系社会青年ボランティア	2名	27名
④日系社会シニアボランティア	0名	6名

発行 独立行政法人 国際協力機構
 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
 TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
 E-mail jicakjv@jica.go.jp
<https://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン
 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp
 までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。